

事業シート6

課コード: 001705000
 担当組織: 観光交流課

作成日: 平成24年4月1日
 責任者: 金子 達也

基本政策	課	政策	目	事業	款	項	目	事項	款	項	目	事項
計画コード	01	04	0107	01	010245	予算コード	31	31	36	30		

事業名: コンベンション推進事業

事業費 (予算) (単位:千円)	23年度	24年度	比較	人工 (正規職員) (単位:人)	23年度	24年度	比較
	46,968	48,968	2,000		1.0	1.0	0.0
24年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他
		35,742			13,000		226

事業の目的

本市の観光広報宣伝・コンベンション支援を行い、コンベンションの誘致、交流客数の増加を図る。

事業内容(平成24年度に何をやるか)

行政と民間の中間的存在としての浜松観光コンベンションビューローへ事業を委託することにより、行政にない機動性と民間の営業ノウハウを取入れ、より効率的、効果的に誘致活動の展開を図る。

【コンベンション誘致事業】

本市の観光広報宣伝・プロモーション活動を行い、コンベンションの誘致を図る。

【コンベンション誘致促進事業補助金】

コンベンション主催者に対する支援、本市の広報宣伝、コンベンション関連調査、企画等コンベンションに関する事業を支援する。

・コンベンション開催補助金～従来の宿泊費補助(1人当り 500円)に加え、経済的効果が大きい国際的・全国的なコンベンション誘致を推進するため、国際会議等に対応した支援を行う。

・コンベンション開催アトラクション助成金～アトラクションを行う団体に支払額の2分の1に相当する金額を助成(10万円を限度)

これまでの取組状況(平成23年度に何をを行い、その結果はどうなったか)

コンベンション開催団体やキーパーソンへの積極的な営業活動、情報収集、情報提供などを行うとともに、展示会等への出展や視察受入などの事業に取組んだ。

また、震災により変更を余儀なくされたコンベンションの開催を支援することにより、全国競泳国際大会代表選手選考大会(1000人) [4月9日～11日] など3件が開催された。

来年度以降開催支援が決定又は予定される会議(1000人以上の会議)

【平成24年度】

- ・日本認知症ケア学会大会(4000人) [5月19日～20日]
- ・日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会(1500人) [5月27日～29日]
- ・国際法中毒学会(TIAFT2012) [6月4日～8日]
- ・第54回自治体学校(1300人) [7月21日～23日]
- ・日本薬剤師会学術大会(8000人) [10月7日～8日]
- ・全国語学教育学会年次国際大会 [10月12日～15日]
- ・全国トラック運送事業大会(1500人) [10月17日～19日]

【平成25年度】

- ・日本人間ドック学会(3000人) [7月]
- ・日本理学療法士協会第48回全国学術研修大会(2400人) [10月]

開始年度	終了予定年度	事業の性格分類	根拠法令等					
平成 6 年	年							
会計区分	戦略性	マニフェスト	事業の特徴	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
一般会計	重点戦略							
行革審答申	外部評価	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
	*H20は事業仕分け							

(単位:千円)		H22	H23	H24	H25計画	H26計画	H23～26計
事業費	予算	46,968	46,968	48,968	48,968	48,968	193,872
	決算	46,905	46,962				46,962
財源内訳	国・県支出金						0
	市債						0
	その他						0
	一般財源	46,905	46,962	48,968	48,968	48,968	193,866
	*一般会計繰入						0
人件費(報酬等)							0
人件費		8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	32,000
内訳	人工(正規)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
	人工(非常勤)						
	人工(再任用)						
年間経費(事業費+人件費)		54,905	54,962	56,968	56,968	56,968	225,866

成果指標1		コンベンション支援件数					
種類	アウトプット(活動指標)	単位	H22	H23	H24	H25	H26
	目標	件	140	145	150	155	160
	実績	件	119	139			

成果指標2							
種類		単位	H22	H23	H24	H25	H26
	目標						
	実績						

事業の成果(平成23年度末での目的の実現状況 活動ではなく状態)

主なコンベンション開催状況 ()内は参加者数

国際会議(参加者200人以上、2日以上)

- ・第42回日本吹奏楽指導者クリニック(1800人)【5月13日～15日】
- ・第34回呼吸器内視鏡学会学術集会(2050人)【6月15日～17日】
- ・日米韓機械学会流体工学国際会議(700人)【7月24日～29日】
- ・第6回静岡国際オペラコンクール(5000人)【11月12日～24日】
- ・第32回日本臨床薬理学会年会(2600人)【12月1日～3日】
- ・光科学技術で拓く脳・精神科学平和探求研究会(230人)【2月14日～16日】

国内会議(参加者1000人以上)

- ・第43回全国商工会議所女性会連合会浜松全国大会(参加人数:3,000人)【10月6日～7日】
- ・第21回臨床内分泌代謝Update(1000人)【1月27日～28日】
- ・第20回全国救急隊員シンポジウム(5000人)【2月2日～3日】

評価(平成23年度事業の評価)

(1) 必要性: 継続

(廃止した場合に考えられる影響)

コンベンションの開催は、地域の経済・文化の活性化に繋がるため必要である。

(2) 責任主体: 市

(市が実施しない場合に考えられる影響)

国際的なコンベンションの誘致には、行政の関与が必要である。

(3) 拡大・縮小: 現状

(理由)

コンベンションの開催は、地域の経済・文化の活性化に繋がるため、PR活動や助成を行うことで主催者や参加者の満足度をあげて、次回開催や別のコンベンションの開催に繋げていくことが必要である。

(4) 改善: 協働

(理由)

コンベンション誘致については、浜松観光コンベンションビューローが主体となり、コンベンション主催団体やキーパーソンへの営業活動など、民間手法を取り入れた積極的な情報収集、情報提供などを継続して実施しているため。

今後の方向性 改善

震災に影響により国際会議や国内での大きな会議の開催地として、東京と大阪の中間に位置している点や施設の規模等において浜松市の利点を活かした誘客・PR活動に努める必要がある。そのため官民一体となって積極的なPRや助成を行っていく。

改革・改善(評価を反映して何を見直したか)

(1) これまでに実施した改革・改善(平成24年度予算で反映したものを含む)

- ・コンベンション開催助成金制度、コンベンション開催アトラクション助成金制度により、本市でのコンベンション開催を支援する。
- ・コンベンション開催のための資料誌「浜松コンベンションガイド」を作成し、主に東京都内及び横浜地区の主催者・関係団体への誘致活動を行う。
- ・アフターコンベンション資料「浜松まちなか うまいもんマップ」を改訂し、コンベンション参加者の利便性の向上を目指す。

(2) 今後の改革・改善計画(いつまでに何をどう見直す)

コンベンション誘致には、コンベンション主催団体やキーパーソンへの営業活動など、積極的な情報収集、情報提供などを継続して実施する必要がある。